

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な施策のひとつであると考えており、以下の目的の実現のために全社を挙げて取り組んでおります。

- 1 経営に対する透明性の向上と公正性の確保
- 2 経営の意思決定の迅速化
- 3 ステークホルダーに対する経営責任・説明責任の明確化
- 4 子会社の事業活動の管理・監督

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】

【原則1 - 2. 株主総会における権利行使】

補充原則1 - 2 - 4

議決権電子行使プラットフォームは現在利用しておりませんが、当社の株主名簿管理人が運営する議決権行使ウェブサイトを利用した議決権の電子行使を採用しております。

また、招集通知の英訳は、当社の外国人株主比率が10%未満であり、相対的に低いと考えているため実施しておりませんが、今後、外国人株主比率の推移を踏まえ検討してまいります。

【原則2 - 4. 女性の活躍促進を含む社内の多様性の確保】

補充原則2 - 4 - 1

当社は、女性・外国人・中途採用者の管理職への登用等に規制を設けておらず、具体的な目標も定めておりませんが、中国籍の社員の採用実績があり、その一部を管理職にも登用しております。一方、女性の管理職は現時点において配置しておりませんが、女性を総合職として継続採用しており、人材育成を進めることにより中核人材への登用を実現したいと考えております。

【原則3 - 1. 情報開示の充実】

補充原則3 - 1 - 2

英文での情報開示は、海外投資家の比率が10%未満であり、現時点では不要と考えています。今後相対的に高いと考えられるようになった時点で、英語での開示を検討します。

【原則4 - 1. 取締役会の役割・責務(1)】

補充原則4 - 1 - 3

当社は、あらかじめ最高経営責任者(CEO)等を特定し、計画的に育成することは考えておらず、その時々々の経営課題に対処するのに最もふさわしい候補者を取締役会にて推薦し、指名・報酬委員会の審議を経て、取締役会で最終決定することといたします(2021年11月9日に指名・報酬委員会を設置)。

【原則4 - 2. 取締役会の役割・責務(2)】

補充原則4 - 2 - 2

当社は、仮設建物の「オペレーティングリースシステム」を通じて、環境保護と経済成長が両立する社会の形成に貢献しておりますが、自社のサステナビリティについての取組方針の策定には至っておりません。今後、具体的な対処法を開示できるような取り組みを検討し、サステナビリティを巡る取組みについて基本的な方針の策定を検討してまいります。

【原則4 - 11. 取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件】

補充原則4 - 11 - 1

現状、各取締役の知識・経験・能力等を一覧化したいいわゆるスキル・マトリックスを作成しておりませんが、今後、選任に関する方針・手続と併せて開示するよう検討してまいります。

また、経営経験を有する独立社外取締役はおりませんが、今後検討してまいります

【原則5 - 2. 経営戦略や経営計画の策定・公表】

現在、中期経営計画を公表しておりませんが、開示するには明確に説明を行うよう努めてまいります。

補充原則5 - 2 - 1

当社の事業ポートフォリオは「仮設建物リース業」の単一ポートフォリオであり、現時点においてポートフォリオの見直しを予定しておりませんが、開示するには基本的な方針については分かりやすく説明を行うよう努めてまいります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】

【原則1 - 3. 資本政策の基本的な方針】

当社は安定成長を目的として、現状の資本水準を保持することを基本方針としております。

他方で、配当方針については、半期ごとに安定的な配当を継続して実施することを重視しており、配当性向を30%以上とすることを有価証券報告書にて開示しています。

【原則1 - 4. 政策保有株式】

1. 政策保有に関する方針

当社は、株価変動によるリスク回避および資産効率の向上の観点から、取引関係の維持・強化など、取引先および当社の企業価値の維持・向上に資すると判断される場合を除き、株式を保有しないことを基本方針としております。なお、純投資以外の目的である投資株式の基準を次のとおりとします。

- ・営業戦略上、当社の企業価値向上に寄与しているか
- ・営業戦略上、将来において当社の企業価値向上が期待できるものであるか

2. 保有の適否検証

中長期的な経済合理性や将来の見通し等の営業戦略上のメリット等を会計年度ごとに検証し、保有の可否を判断しております。

3. 議決権の行使

投資先の経営方針を尊重したうえで、中長期的な企業価値向上や、株主還元姿勢および社会的責任の観点から議案ごとに確認して、議決権の行使を判断することとしております。

【原則1 - 7. 関連当事者間の取引】

当社は、会社法等に基づき取締役会規程において、取締役会の事前承認を得なければ、取締役の競業取引や自己取引を行ってはならない旨を定めております。

また、主要株主等との取引を行う場合には、重要性の高い取引について、事前承認を行っております。なお、主要株主等との取引条件については、他の一般的な取引と同様に、市場価格等を勘案し決定しております。

なお、関連当事者間取引の有無については、年に1回、調査を実施し、取締役会において監視を行っております。

【原則2 - 6. 企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮】

当社は、企業年金担当者が運用機関に対する適切なモニタリングができるよう、定期的に運用受託機関から運用報告を受け、意見交換を行い、年金運営全般の健全性を確認しております。年金担当者の更なる育成につきましては今後も取り組んでまいります。

【原則3 - 1. 情報開示の充実】

1. 当社は、「オペレーティングリースシステム」を通じて、環境保護と経済成長が両立する社会の形成に貢献していくと同時に、社会・企業・従業員の平和と発展のため、事業活動に精励してまいります。

2. 当社は、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な施策のひとつであると考えており、以下の目的の実現のために全社を挙げて取り組んでおります。

- (1) 経営に対する透明性の向上と公正性の確保
- (2) 経営の意思決定の迅速化
- (3) ステークホルダーに対する経営責任・説明責任の明確化
- (4) 子会社の事業活動の管理・監督

3. 当社は役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針および手続を以下のとおり定めております。

(1) 取締役(監査等委員である取締役を除く)の個人別の報酬等の決定に関する事項

取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬等は、固定報酬、業績連動報酬、非金銭報酬で構成されています。

1) 決定方針

固定報酬

固定報酬は、取締役の職務価値、従業員とのバランス、世間水準、業績等を勘案します。

業績連動報酬

業績連動報酬は、会社の業績(売上高、営業利益、当期純利益等)、取締役の業績、従業員とのバランス等を勘案し、賞与として支給します。

非金銭報酬

非金銭報酬は、取締役に対して企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、長期安定的な株式保有の促進と、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、取締役(社外取締役は除く。)(以下「対象取締役」という。))に対して譲渡制限付株式の付与のための報酬を支給します。

対象取締役は、当報酬の全部を現物出資財産として払い込み、当社の普通株式について発行または処分を受けます。

取締役ごとの譲渡制限付株式の付与のための報酬は、固定報酬月額に役位係数を乗じて算出されます。

支給割合

支給割合は、おおむね以下のとおりとしています。

固定報酬:業績連動報酬:非金銭報酬 = 1.2 : 4 : 1 ~ 1.5

2) 報酬を与える時期

固定報酬

毎月

業績連動報酬

原則として、毎年7月および12月

非金銭報酬

毎年6月に開催される定時株主総会終了後2か月以内

3) 取締役(監査等委員である取締役を除く)の個人別の報酬内容についての決定手続

代表取締役社長が個人ごとの報酬等について立案し、指名・報酬委員会にて審議のうえ、取締役会は指名・報酬委員会の審議結果を参考のうえ

決定しております(2021年11月9日に指名・報酬委員会を設置)。

4) 支給限度額

報酬等(非金銭報酬を除く)

2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において、年額300百万円以内(使用人兼務取締役の使用人分給与を含まない)と承認いただいております。

非金銭報酬

2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において、取締役(社外取締役は除く)に対して譲渡制限付株式の付与のための報酬を年額300百万円以内、当社の普通株式17,000株以内と承認いただいております。

(2) 監査等委員である取締役の報酬等の決定に関する事項

監査等委員である取締役の報酬等は、固定報酬のみの構成としております(2021年7月より)。

1) 決定方針

世間水準および業績等を勘案しております。

2) 報酬を与える時期

毎月

3) 監査等委員である取締役の個人別の報酬内容についての決定手続

監査等委員である取締役の協議により決定しております。

4) 支給限度額

報酬等

2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において、年額500百万円以内と承認いただいております。

4. 役員候補者指名の方針と手続

(1) 次の事項を方針としております。

- ・ 人格に優れ、高い倫理観をもっていること
 - ・ 当社の企業理念の実現に向けて行動できること
- 社外役員については、以下についても考慮しています。
- ・ 専門的知識と経験を保持していること
 - ・ 客観的な立場から取締役の業務執行の監督や経営面での助言ができること

(2) 次の手続にて候補者を決定しております。

1) 取締役(監査等委員である取締役を除く)

代表取締役社長が役員候補者リストを立案し、指名・報酬委員会にて審議のうえ、取締役会は指名・報酬委員会の審議結果を参考のうえ決定しております(2021年11月9日に指名・報酬委員会を設置)。

2) 監査等委員である取締役

代表取締役社長が監査等委員会の同意を得たうえで役員候補者リストを立案し、指名・報酬委員会にて審議のうえ、取締役会は指名・報酬委員会の審議結果を参考のうえ決定しております(2021年11月9日に指名・報酬委員会を設置)。

5. 取締役(監査等委員である取締役を除く)候補者および監査等委員である取締役候補者の選任・指名理由の開示

当社は定時株主総会の招集ご通知において、取締役(監査等委員である取締役を除く)候補者および監査等委員である取締役候補者の経歴の詳細等、選任に際して重視した事項を個別に開示しております。

補充原則3 - 1 - 3

当社は、学校、事務所、店舗、交番などの公共施設、自然災害時の応急仮設住宅など、仮設建物を通じて、安全で安心して暮らせる地域社会づくりに貢献しており、これらの貢献を支えるのは当社のビジネスモデル「オペレーティングリースシステム」であると考えております。このシステムは、効率的な企業経営と社会の省資源化を同時に可能にするところが最大の特徴であり、廃材の発生抑制と部材のリユースを徹底して行うリースシステムです。

当社は、リユース可能な商品開発を継続し市場投入することにより、「廃材ゼロ」を目指しており、この活動こそが地球環境問題への最大の取り組みだと考えております。

【原則4 - 1. 取締役会の役割・責務(1)】

補充原則4 - 1 - 1

取締役会は経営の意思決定・監督機関として、法令または定款で定める事項や、長期経営方針、事業運営計画等当社の取締役会規程に定める重要事項について意思決定をしております。また、決裁規程等で金額等具体的基準を設けて決裁権限を経営陣に委譲しております。

【原則4 - 9. 独立社外取締役の独立性判断基準及び資質】

当社は、会社法ならびに東京証券取引所が定める基準をもとに、以下の当社独自の基準を満たす独立社外取締役を選定しています。

1. 過去5年間に、当社および当社の関係会社(以下併せて当社グループという)ならびに特定の企業等と以下の利害関係を有していないこと。

(1) 当社グループから、年間1千万円を超える金銭その他の財産を受け取っていないこと。

(2) 以下の企業等(持株会社を含む)の取締役、執行役、その他の役員でないこと。

1) 当社グループとの年間取引額が当社グループあるいは相手先の連結売上高の2%を超える企業等

2) 取引額にかかわらずメインバンク、監査法人等当社グループと実質的な利害関係を有する企業等

3) 当社の大株主(発行済株式総数の10%以上を保有)である企業等

4) 当社が大株主(発行済株式総数の10%以上を保有)となっている企業等

2. 当社グループの役員の配偶者あるいは2親等以内の親族でないこと。

3. 第1項に該当する者と生計を一にしていないこと。

4. その他、独立役員としての職務を果たすことができないと合理的に認められる事情を有していないこと。

【原則4 - 10. 任意の仕組みの活用】

補充原則4 - 10 - 1

当社は2021年11月9日に3名以上の取締役で構成し、過半数を独立社外取締役とする指名・報酬委員会を設置しました。

つきましては、委員会の適切な関与および助言を得ることができるようサポートしてまいります。

【原則4-11.取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件】

補充原則4-11-2

当社では、当社グループ以外の他の上場会社の社外取締役に兼任している取締役（監査等委員である取締役を含む）はならず、取締役の業務に専念できる体制となっております。

なお、取締役（監査等委員である取締役を含む）の他社での兼任状況は、株主総会招集通知、有価証券報告書等を通じ、毎年開示を行っております。

補充原則4-11-3

当社では、役員全員を対象に、取締役会の構成および運営について網羅的に自己評価・自己分析を行うアンケート調査を毎年一回実施し、その集計結果に基づき、取締役会にて議論を行い、取締役会の実効性を高めるための改善につなげる運用としており、現在の取締役会のあり方や運営に実効性があることを確認しております。

【原則4-14.取締役・監査役のトレーニング】

補充原則4-14-2

当社は、取締役（監査等委員である取締役を含む）が、その役割・責務を果たすために必要なトレーニングの機会を継続的に提供することを基本方針としております。取締役は、社外セミナー等に参加することによって取締役として必要となる情報や知識の習得に努めております。また、社外取締役については、当社の事業内容の説明や主要拠点等の視察を実施し、会社の事業等に対する理解促進を図っております。

【原則5-1.株主との建設的な対話に関する方針】

当社では、株主総会における株主との対話は最も重要であると考えております。また、個別の面談の要望があれば検討のうえ、対応しております。総務部をIR担当部署としており、株主からのご意見については、必要に応じてIR担当者より取締役会への報告を行っております。

補充原則5-1-2

() 当社では、株主との対話全般に目配りを行う取締役は、取締役総務部長としております。

() IR担当者を総務部内におくことで、総務部長ほか各部署との連携を行っております。

() 投資家説明会は行っていませんが、企業価値の向上に資する情報の開示に努めてまいります。

() IR担当者より随時、担当取締役への報告を行うとともに、定期的に経営陣への報告を行っております。

() 当社は「内部者取引管理規程」によりインサイダー情報を管理するとともに、株主や投資家との対話の際には、当社の持続的成長、中長期的な企業価値に資する事項を対話のテーマとすることにより、インサイダー情報管理に留意しております。

2. 資本構成

外国人株式保有比率

10%未満

【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
塚本 博亮	239,546	6.94
株式会社オーガスト・エイト	211,400	6.12
塚本 四女子	126,503	3.66
渡邊 俊雄	99,700	2.89
塚本 幸司	97,273	2.82
デイエフエイ インターナショナル スモール キャップ パリ्यू ポートフォリオ	61,799	1.79
東海リース従業員持株会	58,975	1.71
JPモルガン証券株式会社	45,000	1.30
中島 和信	42,700	1.24
小野 好昭	39,700	1.15

支配株主(親会社を除く)の有無

親会社の有無

なし

補足説明

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 スタンダード
決算期	3月
業種	サービス業
直前事業年度末における(連結)従業員数	500人以上1000人未満
直前事業年度における(連結)売上高	100億円以上1000億円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情

該当事項はありません。

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査等委員会設置会社
------	------------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	15名
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	10名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	2名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係()												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k		
松井 巧	税理士													
西野 但	税理士													

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、 「過去」に該当している場合は「」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、 「過去」に該当している場合は「」

a 上場会社又はその子会社の業務執行者

b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役

- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

会社との関係(2)

氏名	監査等委員	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
松井 巧				<p>松井巧氏は税理士資格を有しております。過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に關与した経験はありませんが税理士として培われた豊富な知識・経験等に基づいて、客観的かつ公正な立場で取締役の職務の執行を監査できると判断しております。</p> <p>(独立役員に指定した理由)</p> <p>松井巧氏は税理士事務所を開設していますが、当社とは取引関係が一切なく、また社外取締役として株主の付託を受けた独立機関として、中立・公正な立場を保持していると判断しておりますので、独立役員として指定いたしました。</p>
西野 但				<p>西野但氏は税理士資格を有しております。過去に社外役員となること以外の方法で経営に關与した経験はありませんが税理士として培われた豊富な知識・経験等に基づいて、客観的かつ公正な立場で取締役の職務の執行を監査できると判断しております。</p> <p>(独立役員に指定した理由)</p> <p>西野但氏は税理士事務所を開設していますが、当社とは取引関係が一切なく、また社外取締役として株主の付託を受けた独立機関として、中立・公正な立場を保持していると判断しておりますので、独立役員として指定いたしました。</p>

【監査等委員会】

委員構成及び議長の属性

	全委員(名)	常勤委員(名)	社内取締役(名)	社外取締役(名)	委員長(議長)
監査等委員会	3	1	1	2	社内取締役

監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人の有無

あり

当該取締役及び使用人の業務執行取締役からの独立性に関する事項

- ア. 取締役会は、必要に応じて、監査等委員会と協議の上、監査等委員会の職務を補助すべき使用人を指名することができる。
- イ. 監査等委員会が指定する補助すべき期間中は、指名された使用人への指揮権は監査等委員会に委譲されたものとし、取締役(監査等委員である取締役を除く)の指揮命令は受けないものとする。
- ウ. 各部門は、当該使用人に対する監査等委員会からの指示の実効性が確保されるよう適切に対応する。

監査等委員会、会計監査人、内部監査部門の連携状況

監査等委員会は、組織監査を前提として合議制をもって監査等の実効性の確保に努めます。

会社の監督機能の一翼を担い、かつ、株主の負託を受けて業務執行取締役の職務の執行を監査する法定の独立の機関として、その職務を適正に執行することにより様々なステークホルダーの利害に配慮し、これらステークホルダーとの協働に努め、健全で持続的な成長と企業価値の創造を実現し、社会的信頼に応える企業統治体制を確立します。

会計監査人とは定期的に会合をもち、必要に応じて監査等委員会への出席を求めるほか、会計監査人から監査に関する報告を適時かつ随時に受領し、積極的に意見および情報の交換を行うなど、会計監査人と緊密な連携を保ち実効的かつ効果的な監査を実施することができるよう体制の整備に努めます。

また、内部統制システムの構築、運用とそれに対する監視および検証を前提として、検査室等との実効的連携等を通じて、会社の業務および財産の状況に関する調査、検証を行い、取締役会に対する報告もしくは提案、あるいは勧告、行為の差し止めなど、必要な措置を適時に講じます。

【任意の委員会】

指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無

あり

任意の委員会の設置状況、委員構成、委員長(議長)の属性

	委員会の名称	全委員(名)	常勤委員(名)	社内取締役(名)	社外取締役(名)	社外有識者(名)	その他(名)	委員長(議長)
指名委員会に相当する任意の委員会	指名・報酬委員会	3	0	1	2	0	0	社外取締役
報酬委員会に相当する任意の委員会	指名・報酬委員会	3	0	1	2	0	0	社外取締役

補足説明

指名・報酬委員会は、取締役会が選定した3名以上の取締役とし、委員の過半数を独立社外取締役で構成しております。

取締役の指名、報酬等に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化し、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を図ることを目的として、本委員会を設置しております。

本委員会は、取締役会の諮問に応じて次の事項について審議し、取締役会に対して答申を行います。

- (1)株主総会に付議する取締役の選任議案に関する事項
- (2)取締役の個別報酬に関する事項
- (3)その他取締役会が必要と認めた事項

【独立役員関係】

独立役員の人数

2名

その他独立役員に関する事項

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況

その他

該当項目に関する補足説明

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、当社の役員による長期安定的な株式保有の促進と、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式報酬制度を導入するため、2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において譲渡制限付株式の付与のための報酬を決定しました。

ストックオプションの付与対象者

該当項目に関する補足説明

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況

個別報酬の開示はしていない

該当項目に関する補足説明

当社が前期に支払った役員報酬等の総額は150百万円であり内訳は以下の通りであります。

取締役(8名:兼務役員を含む、監査等委員および社外取締役を除く)・・・134百万円

監査等委員(1名:社外取締役を除く)・・・6百万円

監査役(1名:社外監査役を除く)・・・2百万円

社外役員(5名)・・・7百万円

なお、上記金額には基本報酬の他に役員賞与および役員賞与引当金繰入額を含んでおります。
また、上記のほか使用人兼務役員の使用人給与(賞与含む)相当額53百万円を支給しております。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

1. 取締役(監査等委員である取締役を除く)の個人別の報酬等の決定に関する事項

取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬等は、固定報酬、業績連動報酬、非金銭報酬で構成されています。

(1) 決定方針

固定報酬

固定報酬は、取締役の職務価値、従業員とのバランス、世間水準、業績等を勘案します。

業績連動報酬

業績連動報酬は、会社の業績(売上高、営業利益、当期純利益等)、取締役の業績、従業員とのバランス等を勘案し、賞与として支給します。

非金銭報酬

非金銭報酬は、取締役に対して企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えると同時に、長期安定的な株式保有の促進と、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、取締役(社外取締役は除く)(以下「対象取締役」という。)に対して譲渡制限付株式の付与のための報酬を支給します。

対象取締役は、当報酬の全部を現物出資財産として払い込み、当社の普通株式について発行または処分を受けます。

取締役ごとの譲渡制限付株式の付与のための報酬は、固定報酬月額に役員係数を乗じて算出されます。

支給割合

支給割合は、おおむね以下のとおりとしています。

固定報酬:業績連動報酬:非金銭報酬 = 12:4:1 ~ 1.5

(2) 報酬を与える時期

固定報酬

毎月

業績連動報酬

原則として、毎年7月および12月

非金銭報酬

毎年6月に開催される定時株主総会終了後2か月以内

(3) 取締役(監査等委員である取締役を除く)の個人別の報酬内容についての決定手続

代表取締役社長が個人ごとの報酬等について立案し、指名・報酬委員会にて審議のうえ、取締役会は指名・報酬委員会の審議結果を参考のうえ決定しております(2021年11月9日に指名・報酬委員会を設置)。

(4) 支給限度額

報酬等(非金銭報酬を除く)

2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において、年額300百万円以内(使用人兼務取締役の使用人分給与を含まない)と承認いただいております。

非金銭報酬

2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において、取締役(社外取締役は除く)に対して譲渡制限付株式の付与のための報酬を年額300百万円以内、当社の普通株式17,000株以内と承認いただいております。

2. 監査等委員である取締役の個人別の報酬等の決定に関する事項

監査等委員である取締役の報酬等は、固定報酬のみの構成としております(2021年7月より)。

(1) 決定方針

世間水準および業績等を勘案しております。

(2) 報酬を与える時期

毎月

(3) 監査等委員である取締役の個人別の報酬内容についての決定手続

監査等委員である取締役の協議により決定しております。

(4) 支給限度額

報酬等

2021年6月29日開催の第53回定時株主総会において、年額50百万円以内と承認いただいております。

【社外取締役のサポート体制】

取締役会は毎月1回定期的に、必要に応じて臨時に開催し、社外取締役も全員出席しており、必要に応じて出席取締役により追加説明を求め、情報の共有を密に行っております。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要)

(1) 取締役会

取締役会は、監査等委員である取締役3名(うち社外取締役2名)を含む取締役11名で構成しております。取締役会は毎月1回定期的に開催し、必要に応じて臨時に開催しております。各取締役(監査等委員である取締役を除く)より業務執行状況について報告が行われており、重要事項についてはすべて付議されております。

(2) 監査等委員会

当社は監査等委員会設置会社の体制を採用しております。監査等委員である取締役は3名体制をとっており、1名が常勤であります。監査等委員である取締役3名のうち、2名は社外取締役であり、原則として毎月1回監査等委員会を開催し、監査の効率性を高めるため、会計監査人との情報交換を密に行い、監視体制の充実に努めております。

監査等委員である取締役3名は取締役会に出席しているほか、常勤1名は社内での重要な各種会議にも積極的に参加し、取締役の職務執行を十分に監視し、業務の執行状況を監査できる体制となっております。

(3) 会計監査

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを選任し、公正不偏な立場から監査が実施されております。前期(2022年3月期)において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の状況は次の通りです。

業務を執行した公認会計士の氏名と継続監査年数

指定有限責任社員 業務執行社員 下井田 晶代 1年

指定有限責任社員 業務執行社員 牧野 秀俊 2年

会計監査業務に係る補助者

公認会計士 10名 会計士補等 8名

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を取締役会の構成員とすることにより、取締役会の監督機能を強化し、かつ独立社外取締役を2名選任することによって、より一層のコーポレートガバナンスの充実に図るため当該体制を採用しております。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	株主が総会議案の十分な検討時間を確保することができるよう、招集通知は概ね法定の3営業日前に発送しております。

電磁的方法による議決権の行使	議決権電子行使プラットフォームは現在利用しておりませんが、当社の株主名簿管理人が運営する議決権行使ウェブサイトを利用した議決権の電子行使を採用しております。
その他	TDnetおよび自社ウェブサイトにおいて招集通知発送の概ね1週間前から公表しております。

2. IRに関する活動状況

	補足説明	代表者自身による説明の有無
IR資料のホームページ掲載	当社ホームページには、決算情報、決算情報以外の適時開示資料を掲載しております。	
IRに関する部署(担当者)の設置	総務部をIRに関する担当部署としております。	
その他	アナリスト・機関投資家からの要請に応える形で、機関投資家との面談を行っております。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定	ステークホルダーに対する説明責任を果たすため、ホームページの改良等を含む、IR活動の充実化を図ってまいります。

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

(基本的な考え方)

当社は、企業理念である「社会と我が社の企業と我が社の社員とその家族が、永遠の平和と幸福をかちとる企業たること」に基づき、取締役およびグループ会社を含む全従業員が、法令順守はもとより、社会人・企業人として求められる倫理観・価値観に従い、誠実に行動することを企業活動の原点とする。

内部統制システムの構築は、以下の3点を最も重要な施策であると位置付ける。

- (1) 上記基本方針に基づく企業活動を実践し、企業統一行動を図る。
- (2) 業務の効率性と、経営の透明性を高める。
- (3) 財務報告への信頼性確保と、企業価値の向上。

(基本方針に基づく内部統制システム構築のための体制)

1. 取締役、使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (1) 代表取締役社長は、上記企業理念の精神を取締役以下グループ全使用人に継続的に伝達し、コンプライアンスの徹底に努める。
- (2) 取締役は、これを率先垂範して実践し、従業員への啓蒙・指導に努める。
- (3) 代表取締役社長は、コンプライアンス全体に関する総括責任者として総務部長と連携し、コンプライアンス体制の構築および整備にあたる。また、公認会計士や、弁護士等、外部識者との意見交換を密にし、コンプライアンス機能の充実に努める。
- (4) 監査等委員会は、コンプライアンス体制の運行定着状況や、法令ならびに定款上の問題の有無を監視し、取締役会に報告する。
- (5) 取締役会は、定期的にコンプライアンス体制を見直し、問題点の把握と改善に努める。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- (1) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理は、既存の「文書規程」、「稟議規程」に従い、当該情報を文書または電磁的媒体に記録し、整理・保存するものとする。
- (2) 監査等委員会は、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理について諸規定に準拠して実施されているかを監査し、必要に応じ、取締役会に報告する。
- (3) 「文書規程」、「稟議規程」は適時見直しを行い、改善を図る。

3. 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- (1) 当社は、当社の業務執行に係るリスクとして、次の から のリスクを認識し、その把握と管理、および個々のリスクについての損害を最小限に食い止めるための体制を整備する。

地震、火災、事故等の災害により事業活動に重大な損失を被るリスク

役員および使用人の不適正な業務執行により、販売・生産活動に重大な支障を被るリスク

基幹電算システムの不具合により重大な被害を被るリスク

その他、取締役会がきわめて重大と判断するリスク

(2) 上記リスクに対する各部門のリスク管理体制を全社一元的に「リスク管理規程」として制定する。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

(1) 取締役の職務の執行は、「職務権限規程」に定める。

(2) 代表取締役社長は、中期事業計画および年次事業計画に基づいた各部門の目標に対し、職務権限規程に準拠し、かつ効率的に行われるよう監督する。

(3) 各部門担当取締役は、取締役会においてその達成状況を定期的に報告し、施策および効率的な業務遂行体制を阻害する要因の分析とその改善を図る。

(4) 「職務権限規程」は随時見直しを行い、改善を図る。

5. 株式会社ならびにその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

(1) 「関係会社管理規程」に基づき、業務の執行が法令および定款に適合することを確保するための諸施策に加え、東海リースグループの企業集団としての業務の適正と効率性を確保する。

(2) 関係会社の所轄業務についてはその自主性を尊重しつつ、事業計画に基づいた施策と効率的な業務遂行、企業理念にそったコンプライアンス体制の構築、リスク管理体制の確立を図るため、関係会社業務担当取締役が統括管理する。

(3) 関係会社業務担当取締役は、関係会社の管理の進捗状況を定期的に取締役会において報告する。また、監査等委員会が東海リースグループの連結経営に対応したグループ全体の監視・監査を実効的かつ適正に行えるよう、会計監査人およびグループ会社との緊密な連携体制を構築する。

(4) 監査等委員会は、定期または臨時にグループ管理体制を監査し、取締役会に報告する。

(5) 「関係会社管理規程」は適時見直しを行い、改善を図る。

6. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の取締役(監査等委員である取締役を除く。)からの独立性に関する事項、当該使用人に対する指示の実行性の確保に関する事項

(1) 取締役会は、必要に応じて、監査等委員会と協議の上、監査等委員会の職務を補助すべき使用人を指名することができる。

(2) 監査等委員会が指定する補助すべき期間中は、指名された使用人への指揮権は監査等委員会に委譲されたものとし、取締役(監査等委員である取締役を除く。)の指揮命令は受けないものとする。

(3) 各部門は、当該使用人に対する監査等委員会からの指示の実効性が確保されるよう適切に対応する。

7. 監査等委員会への報告に関する体制、その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(1) 代表取締役社長および取締役(監査等委員である取締役を除く。)は、取締役会および各種の重要な会議において、随時、その担当する業務の執行状況の報告を行う。

(2) 取締役(監査等委員である取締役を除く。)および使用人、ならびに子会社取締役、監査役および使用人は、以下に定める事項について、発見次第速やかに監査等委員会に対し報告を行う。

当社および当社グループの信用を大きく低下させたもの、またはその恐れのあるもの

当社および当社グループの業績に大きく悪影響を与えたもの、またはその恐れのあるもの

社内外の環境、安全、衛生に関し重大な被害を与えたもの、またはその恐れのあるもの

社内の諸規程に対する重大な違反

その他 ~ に準じる事項

(3) 監査等委員は、稟議書等業務執行に関わる重要な文書を閲覧し、必要に応じ、取締役(監査等委員である取締役を除く。)および使用人に説明を求めることができる。また、「監査等委員会監査規程」ならびに「監査等委員会監査実施細則」に従い、監査の独立性と権限を保ちつつ、監査の実効性を確保するとともに、会計監査人と緊密な連携を行い、必要あるときは、自らの判断で弁護士等の外部アドバイザーを活用し、監査成果の達成を図る。

(4) 「監査等委員会監査規程」ならびに「監査等委員会監査実施細則」は、適時見直しを行い、改善を図る。

8. 監査等委員会への報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

監査等委員会に報告したことを理由とする不利益処分その他の不当な取扱いを禁止する。

9. 監査等委員の職務の執行(監査等委員会の職務の執行に関するものに限る。)について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員の職務執行上必要と認められる費用について、会社が負担するものとし、前払等の請求があるときは速やかにこれに応じるものとする。

(整備状況)

コンプライアンスについては、弁護士、公認会計士等の社外の専門家と密接な関係を保ちつつ、経営上のコンプライアンス機能の充実に努める。また、社内における業務規定の遵守と社員への啓蒙を目的とし、「業務基準・業務取扱細則規定改正委員会」を発足し、全部署の末端に至るまで、業務規定と取扱細則の改正と、運行の定着を図る。

また、取引先に対する信用リスクを客観的に評価するために、外部信用調査機関より、定期的かつ必要に応じて与信情報の照会を行い、不良債権の発生リスクを最小限に抑えることとする。

(内部監査および監査等委員監査の組織、人員及び手続)

当社は、代表取締役社長直轄の内部監査部門として業務執行ラインから独立した検査室を設置する。検査室は監査等委員および会計監査人の監査とは別に「内部検査規定」に基づき内部統制の有効性や業務執行に係る適正性の検査を目的として、年間計画による業務監査および必要に応じて別途検査を実施する。監査等委員と検査室とは、日常より情報交換を行い、監査の効率化と実効性の向上に努める。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

(反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況)

(1) 当社は、反社会的勢力との関係を遮断し、有事の際には法的対応を含め、適切かつ組織的に毅然とした態度で対応するために、以下のとおり体制を整備する。

反社会的勢力対応部門責任者の設置

警察など外部の専門機関との連携強化

反社会的勢力に関する情報の収集と社内での対応方法の周知徹底

(2) 対応マニュアルの整備や社内研修などさらに体制の強化を図る。

その他

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

現段階では買収防衛策の導入の予定はありません。

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

(適時開示体制の概要)

当社は株主および投資家に対して適時、適切な会社情報を開示することを基本とし、情報管理担当者を各部門長が、情報管理責任者を総務部長が担当しております。また、開示過程における情報漏洩対策として「内部者取引管理規程」を定め、周知徹底することにより情報漏洩を防止しております。

1. 決定事実

原則として毎月開催する取締役会にて決定し、必要に応じて臨時取締役会を開催することにより迅速な決定を行っております。この決定事実について、あらかじめ情報管理責任者が内容を把握し、情報管理責任者を中心に開示の必要性を検討し、迅速かつ正確に開示することに努めております。

2. 発生事実

重要な事実が発生した場合、発生した部署を管理掌握する情報管理担当者から情報管理責任者に速やかに報告がなされます。この発生事実について、情報管理責任者を中心として開示の必要性を検討し、代表取締役の承認を受けたうえで迅速かつ正確に開示することに努めております。

3. 決算に関する情報

総務部が決算書類を作成し、会計監査人による監査を受けた内容をあらかじめ情報管理責任者が内容を把握し、取締役会にて承認された内容を迅速かつ正確に開示することに努めております。

